

第29回日本看護管理学会学術集会開催に向けて

学術集会長・田中いずみ氏に聞く

第29回日本看護管理学会学術集会が、2025年8月22日（金）・23日（土）に札幌市で開催されます。学術集会長の田中いずみ氏（医療法人涇仁会 手稲涇仁会病院 副院長・看護部長）に、今回のテーマ「暮らしの中の協奏」に込めた思いや、多角的なプログラムについてご紹介いただきました。

（本誌編集室）

変革の時代に求められる「協奏」

「少子高齢化社会」と一括りに言っても、すでに人口減少が見られている地域やこれから高齢者が増加する大都市圏など、その在り方はさまざまであり、医療・介護の状況も地域ごとに大きく異なります。一方で、地域に暮らしている人びとを見ていると、こうした変化に合わせてたくましく、豊かに生きる人間の強さを感じます。地域で暮らす人びとが自分らしい人生を生きられるよう、私たち看護職はその人の持てる力を信じ、対象となる人びとや、それを取り巻く多職種とともにケアを奏でていくことが大切です。



学術集会長の田中いずみ氏

「協奏」とは、「主体同士が調和し、組織が響きあう身体的共同過程」と定義されます¹⁾。これまで臨床現場では、多職種による「協働」が推進されてきましたが、現代社会の変化のスピードに乗り遅れないために、これからはより柔軟で即時性のある「協奏」が求められると考えています。

1人ひとりの患者さんに対して、医療・介護・福祉分野の多職種が自律し、それぞれの専門性を発揮しながら、互いに響き合い、最適なケアを創り上げていく——オーケストラに例えるなら、指揮者がタクトを振った瞬間に、各奏者が自分の音を奏でるような、躍動感のある連携こそが、地域に根ざした持続可能な医療・介護を実現すると考えています。そして私たち看護管理者にも、現場の看護師が患者さんのために最適なケアを奏でられるよう、スピード感をもって取り組みを推し進めていく役割が求められています。

「地域の人びとの暮らしを守る」と言葉にするのは簡単ですが、従来と同じやり方を続けているだけでは通用しない局面も増えています。日常生活を送ることができるというのは、実は緻密にさまざまな状況が積み重なった結果として実現する、とても奇跡的な営みなのではないでしょうか。こうした背景から、今回の学術集会では「暮らしの中の協奏」をテーマに掲げました。

地域と看護を見つめ直す 多角的なプログラム

「暮らし」と「協奏」を柱に、今回の学術集会では多角的なプログラムを用意しています。

まず基調講演は、地域の人びとの暮らしを支える、これからの時代の看護リ—

ダー像を描く場として、全国の看護の現状を熟知する福井トシ子先生にご登壇いただきます。厳しい社会状況の中にあっても希望を持ち、次代を切り拓く看護管理者の在り方を示していただきます。

海外招聘講演は、日本の看護基礎教育と臨地実習の現状を見つめ直すため、メルボルン大学のキャシー・ダニエル先生をお迎えし、海外の看護教育の動向をご紹介します。若年層の減少や臨床現場の複雑化が進む中で、垣根を越えて次世代を育てていくためのヒントを探ります。

特別講演では、東札幌病院において日本で初めての看護職副院長を務め、ホスピス緩和ケアを推進されてきた石垣靖子先生が登壇されます。北海道の看護師、皆が師と仰ぐ石垣先生から、これからの看護管理の方向性についてメッセージをいただきます。

また、ノンフィクション作家の柳田邦男先生には、地域で生活を営む当事者としての視点から「生きることの意味」を問い直していただきます。さらに、厚生労働省の迫井正深さんからは、2040年問題を見据えた医療・福祉の展望について行政の立場からご講演いただきます。

教育講演では、暮らしを支える看護の視点から、大川弥生さんにご登壇いただきます。ICF（国際生活機能分類）を活用し、生活機能を正確に捉え、生活を理解し支えるための看護の在り方をお話していただきます。

また、グロービス経営大学院の高岡明日香先生には「コンフリクト・マネジメント」をテーマに、組織内外での葛藤との向き合い方についてご講演いただき、埼玉大学経済経営系大学院の宇田川元一先生には、さまざまな人が集まるところである「地域」をどのように捉えていく

表1 第29回日本看護管理学会 学術集会の開催概要

テーマ 暮らしの中の協奏

学術集会長 田中 いずみ氏（医療法人湊仁会
手稲湊仁会病院 副院長・看護部長）

会期 2025年8月22日（金）・23日（土）

会場 グランドメルキュール札幌大通公園（旧 ロイ
トン札幌）、札幌市教育文化会館

ウェブサイト <https://c-work.co.jp/29janap/>

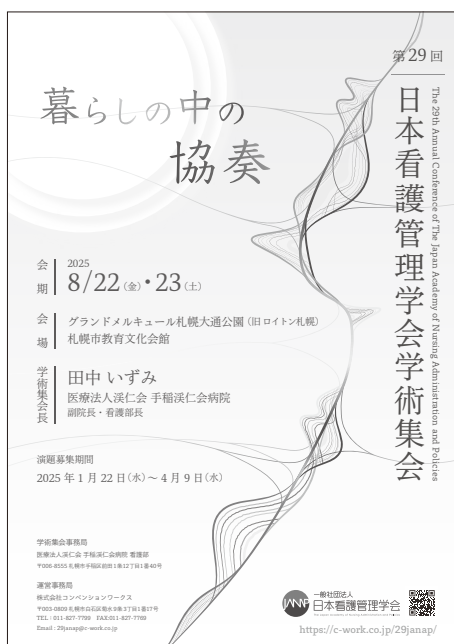


表2 学術集会の主なプログラム （詳細・最新情報は、学術集会ウェブサイトをご確認ください）

学術集会長講演

暮らしの中の協奏：田中いずみ（医療法人湊仁会 手稲湊仁会病院）

基調講演

暮らしを支える未来の看護リーダー像：福井トシ子（国際医療福祉大学大学院）

海外招聘講演

看護基礎教育と臨床との協奏を考える：

Cathy Daniel（Associate Professor, Department of Nursing, School of Health Sciences University of Melbourne）

特別講演

- ・看護管理のこれまでとこれから：石垣靖子（北海道医療大学名誉教授）
- ・生きることを意味を問う—老いや病が人生にもたらすこと—：柳田邦男（ノンフィクション作家）

教育講演

- ・コンフリクト・マネジメント——組織で奮闘する全ての医療者のために：高岡明日香（グロービス経営大学院／ジョージ・ワシントン大学）
- ・組織をケアする—慢性疾患的な組織の変革のために：宇田川元一（埼玉大学経済経営系大学院）
- ・患者の「情報をとってくる」を考える：井部俊子（株式会社井部看護管理研究所／聖路加国際大学名誉教授）
- ・今、看護管理者に求められる経営理論——組織存続のための「両利きの」戦略：角田圭雄（国際医療福祉大学大学院 医療福祉経営学／一般社団法人 日本医療戦略研究センター（J-SMARC））

市民公開講座

備えよう！災害時のトイレ対策：島村允也（特定非営利活動法人 日本トイレ研究所）

かという根幹に基づいた、組織の在り方・変革の方法をお話いただきます。さらに、患者の生活を捉えるための「情報のとり方」を、井部俊子先生のお話から見つめ直していきたいと思います。

シンポジウムでは、「暮らしの中の小さな願いを叶える ACP」「外国人材との共生・協奏」「エビデンスに基づく看護管理」「経営と看護の両立」など多様なテーマを取り上げます。加えて、近年注目されている「カスタマーハラスメント」についても、看護師自身の暮らしを守るという視点から考察します。

また、DX（デジタル・トランスフォーメーション）も、本学術集会を通じた重要なテーマの1つです。DXという業務効率化の側面が強調されがちで

すが、看護管理者が真に考えるべきは、DXをいかに看護の質向上に結びつけるかです。DXを「よりよいケア」に活かすためには、導入と並行して新しい教育の仕組みを構築することが不可欠です。

なお、今回の学術集会では、前回を上回る規模で多くの演題の申し込みをいただきました。一般演題は口演・ポスター発表を合わせて587題、インフォメーション・エクステンションは90題の採択となり、現場の実践や知見を共有する有意義で活発な場となることと思います。

*

学術集会に参加する皆さまとともに協奏し、看護職が未知なる困難に立ち向かえる、その知恵と勇気を持てる学会にしたいと考えています。札幌での開催は

13年ぶりとなります。爽やかな季節の北海道で、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

引用・参考文献

- 1) 小森谷浩志：協奏する組織—認識力ある主体の観点から、学文社、2012。